

観光は場所の提供 ~未来を動かすのは私たちの関心と行動から~

沖縄県立那覇国際高等学校 3 年生

我那覇 結月

「妳從日本的哪裡來的？」

「我從沖繩來的。」

「喔喔，沖繩！Okinawa. 我有去過好幾次，超棒的！」

私は去年九月から 10 ヶ月間長期留学の中で隣国である台湾から観光地沖縄県を今までとは少し違う角度から見る機会がありました。最初の中国語での会話にもあったように実際に台湾からの観光客数やリピーター率の高さを感じることができました。今回は今までの経験を元に成り立つ私が考える観光の在り方について述べたいと思います。まず初めに皆さんは観光という言葉聞いて何を思い浮かべますか。個人によって観光の定義や考えは違うと思います。私にとっての観光は場所の提供です。場所の提供と言ってもしっくりこないと思いますが私の考える場所の提供とは、そこに住む人々の現地に対する関心と行動次第で観光地としての更なる発展の可能性を、またそこでしか提供できない商品の幅を広げられるということです。

私は台湾留学に来る以前台湾の観光と言えば台北 101 や九分などの有名な観光地しか思い浮かびませんでした。しかし実際ここでの生活を通し、現在台湾は国を挙げて自然体験や文化体験などを推進していることを知りました。私自身ネットで見つけた、現在 16 種ある台湾原住民の一つアミ族の文化体験に参加しました。普段の生活からかけ離れた彼ら独自の習慣や文化といった非日常を求め多くの観光客で溢れていました。私とその体験で一番印象に残っているのは私と同じ世代の子が自分たちの民族背景を知り、誇りを持って私達参加者に伝えていた姿です。彼らは歴史、文化、踊りや狩りなどを幼い頃から学び次の世代に伝えていくのです。彼らの文化を継承し続けていく姿勢を実際に目にすることで、商品として自分たちの生活の一部を自信をもち提供できることの素晴らしさを感じさせられました。他にもここ台湾での生活の中で、日本統治時代に建設された建造物が何度も修復されながら今日まで大切に保存されていることを知りました。私は以前住んでいた新竹市で政府企画の外国人交流会に参加する機会がありました。新竹市にも多くの日式建造物が残っていて現在でも再利用されているのですが、一番驚いたのは当たり前利用していた新竹駅が百年以上の歴史を持っていることです。現在では日本にいても目にすることの出来ない歴史的建造物をここ台湾で大切に保存されている姿を見れて嬉しい気持ちと同時に、統治時代の背景を経て今の台湾があるという歴史を肌で感じることができました。また昨年参加した中国教育研修にて世界的大都市上海で租界時代の町並みが残るオールド上海と近代化の進むニュー上海を見ることができました。そこでしか伝えられない背景を世代を超えて目に見える形で残すことで、都市に居ながらも昔の歴史を同時に感じられるという魅力が、世界中の多くの人が上海にひきつけられる理由の一つ

だと私は思います。台湾で見た日本統治時代の建造物や大都市上海で見たオールド上海とニュー上海の対比を通して、観光は場所の提供でありそこに住む人間がベースなのだと痛感しました。現地の歴史上で起こったこと、行われていた背景を残して伝えていくのか、忘れるのかということです。現在日本では都市発展が進み京都や奈良など歴史的観光地以外では昔の日本の面影を目にする機会はほとんど無いかと思えます。しかし台湾ではあえて当時の姿を残すことで言葉では伝えられない歴史の背景を物語っているのです。統治時代に建てられた建造物が約 100 年という月日を経て今日では台湾独自の特色となり多くの日本人観光客を魅了しています。私達の住む沖縄県にも独自の歴史や文化、芸能、素晴らしい自然があります。日常の中で当たり前だと感じるものが観光の可能性を秘めているかも知れません。私自身実際ここでの生活を通し「沖縄＝黒糖」という台湾人の沖縄黒糖好きを知り、大きなデパートやアミューズメントパークなどの観光地がなく「ぬーんねんしが今帰仁村」がモットーである私の地元今帰仁村でも名産の今帰仁黒砂糖を台湾人観光客向けに、キビ狩り体験や製糖工場見学などを商品として提供できるのではないかと思いました。未来の沖縄観光発展のためには現地で提供できる商品の幅を広げなければなりません。そのためには今日まで残っているものを忘れるのではなく残すこと、そして私達がもっと沖縄のことを知り関心を持ち、価値を見出すことです。じゃあ、明日から自分の身の回りで観光の商品となるものを見つけよう！と言われても”当たり前”の環境で生活している限りいきなり観光の可能性を見出すなんて、魅力に溢れた沖縄県でさえ難しいでしょう。私は今こうして地元やんばる、沖縄を離れたことで初めてその素晴らしさに気づくことが出来ました。では普段の日常生活の中でどのように自分の住む地域の素晴らしさに気づけるのでしょうか。私は台湾で現地の学生と学校生活を送る中、地元の観光名所について全校生規模で行われた公論会議に参加する機会がありました。公民の授業で付近の観光地の現状を知り問題提示と解決法を考え、それをシェアし学年を超えて討論し合うという内容でした。私の住む地域は田舎であるため正直地元の人以外は知らないような場所もありましたが、未来を背負う私達高校生が「観光教育」を通し地元の観光地と向き合い問題視することで現状を改善できる可能性が広がり、また若者の地元観光への関心が高まると思います。

観光は場所の提供。観光県としての沖縄の未来を動かすのは誰でもなく私達沖縄県民です。大好きな沖縄県に埋もれている素晴らしい魅力と可能性を発見し、更に多くの人々に言語や国境を超えて伝えていくために、まずは私達の身の回りの当たりの生活に目を向けてはみませんか。